

海外最大の第19回日本まつり（ブラジル・サンパウロ）

今年も7月8日～10日と、今では日系団体最大の祭となった、ブラジル都道府県人会連合会(以後県連)主催による「第19回日本まつり」(Festival do Japão フェスバル ド ジャポン)が新装なった EXPO SÃO PAULO 会場で開催され、晴天に恵まれ昨年を上回る16万8000人が入場した。

今年のテーマは「スポーツと健康」で、開催が迫っているリオ・オリンピックや4年後の「東京オリンピック」にちなみ、東京五輪組織委員会も出展しおもてなしに「足湯」を設置した。

食ブースは46県人会、他7慈善団体が参加。各県人会は郷土食や自慢のあらゆる「食」が提供され、各ブースは客が長蛇の列を作り、テーブルはどこも一杯で郷土食に舌つつみと熱気で盛り上がった。

祭に欠かせないスポンサーとして日本関連企業、日本政府関係、コロニアの企業、文化団体、日本食関係、バザー店、中央に郷土食53店舗が立ち並び、文化広場ではスポーツなど様々な日本文化を伝えている。芸能ステージもあり、日系団体の約40種の芸能が披露され、ミスコロニア選出もあった。、場外に「盆踊り特設舞台」設置され、こちらも40近くの盆踊りや団体芸能を堪能できた。

岩手県人会は、長年出品している岩手のワカメを使用した「三陸わかめうどん」が目玉で、わかめソバ、コロッケ弁当、コロッケ（ブラジル特産のキャサバ、Mandioca を使用）、ギョウザの5品目で殆どを売り上げた。

毎回、物品搬送、味付けや食を作る人、準備裏方、お客の応対と毎日30名近くのボランティア活動に感謝を述べたい。

祭りを振り返ると21年前、岩手県人会と他3県人会青年部合同による「寿司まつり」を開催。寒い時期であり温かい岩手の郷土料理「けんちん汁」を出し喜ばれた。時の県連の会長さんがけんちん汁を賞味し、寒いときは温まると喜んだ。

各県には「美味しい郷土料理」があるんだと「ヒント」を得て、県連役員会や各県人会に計りイビラプエラ公園の特設会場で「郷土食祭り」を開催した。良く覚えていないが数万人の集客であった。以後回を重ね発展し「日本まつり」となった。

配信 ブラジル岩手県人会 2016年7月18日



開会式



食広場は好みの食を味わう群集でどこも一杯



岩手のブース前でも食を求める客で一杯



食を求める人々



若い人々に流行っている・・・



県連接客会場に各県の食が並んだ



岩手県人会の酒、コロッケ、わかめうどん、

わかめそば



県連特設会場にて



三陸わかめうどん



コロッケ弁当



スポンサー広場



JICA スタンドの折り紙



竹工具で遊ぶ子供



岩手県人会太鼓「雷神」の演奏



足湯



場外スタンド



新設されたパビリオン、後方に4500台収容のガレージ



スポンサー広場



多田副会長はブラジル人にわかめうどんを説明



若者



着任した JICA シニアボランティア釜石出身の輿浦夫妻来訪



アニメスタンド



岩手スタンドのボランティアたち